

—第2回—

# 絹谷幸二芸術賞

選評

## 自身の独自性を発揮して

絹谷幸二(洋画家)

川田さんの超巨大な壁画に感動した。自分の体を大きい画面にぶつけ、心豊かなく壁画を描いている。私が歩んで来た壁画の道と一緒に歩んでくださったという意味で壁画家として私の面目躍如たるものがある。



弓指さんの作品も、非常に力強さが画面に満ちあふれている。油絵といえるようなメディアをミックスしながら自分の世界を創りつつあるということで今後の精進が期待される。

どんな分野でもその個人の個性が大変、大事になる。今後とも皆さんに、ご自身の独自性を発揮していただけたらうれしい。

## 大胆なストローク 記憶

島敦彦(国立国際美術館長)

川田さんの作品の主題は日本のどこにでもある均一化された景観。それを具体的に描くというより、景観が見せる日常の不安定な一方、日本を含む世界で起きている衝突などに思いをはせながら、大画面に非常に大胆なストロークで伸びやかに表現している。

弓指さんの作品は多くの場合テキストと絵をセットで展示することが特徴で、当事者意識という切迫感によって、作品から目が離せなくなる。死者への鎮魂、語り出しの出来事、普段は心の奥底に沈んでいる記憶を形にしていく。弓指さんにしか表現できない作品だ。

## ダイナミックな動き 衝撃

建島哲(埼玉県立近代美術館長)

川田さんの作品は少し離れてみると、いくつかの層が重なり奥行きがあり、それを横断するようにダイナミックな動きが描かれている。近寄ってみると、フレスコ画のディテールやニュアンスには油絵にはない質感やインテリメートな(親密な)感覚があり、素晴らしい。

弓指さんの山谷で暮らす方々を描いた作品は、彼らが持っている不思議な雰囲気や心が深く訴えてくるような感じがした。平和な日常生活を送っている者からすれば、こんな人間の生のありようもあるんだという非常に特別な思いとともに強い衝撃を受けた。



川田知志《築土構木(B1F)》2024年 漆喰、顔料、ラス網、合成樹脂塗料、構造用合板 298×3500cm 京都市京セラ美術館 ザ・トライアングル 撮影: 来田猛



弓指寛治《挽歌》2016年 アクリル絵具、油彩、ペン、鉛筆、コーヒー、木製パネルに貼った新聞紙 240×637cm 高橋龍太郎コレクション Photo by Masakuni Murakami



ゆみぞし、かぢ 昭和61(1986)年、三重県生まれ。名古屋芸術大学美術史学科卒業。自死・慰霊や社会・歴史の暗部をテーマに鮮烈な作品を制作

## 奨励賞 弓指寛治さん

映像メディアを学んでいた大学3年生のとき、旅行先の米ネキスにある美術館で現代アーティスト、サイ・トウオプリーの作品に出会ったことが現代美術に進むきっかけになった。「線があまりに美しい。なんて格好いいんだろう」と衝撃を受けた。大学院修了後、経済的な基盤を得た上で制作集出しと、友人らと映像制作会社を立ち上げた。しかし経営で忙しく制作できるのはなくなり、会社を辞め、27年、ブロンカ

## 母への思い、鳥に託す



## 大賞 川田知志さん

中学、高校時代は建物の壁などにペンキやスプレーで描くストリートアートやグラフィティに興味があった。大学では壁に漆喰を塗り、乾かずに絵を描くフレスコ技法で描く壁画は「まずは信用が必要だが、その技術を証明する機会がまったくなさく、大学を出た後はもうそれどころがなかった。フレスコ画に親しみを持って、大学を卒業してからは、母の思い出をモチーフに壁画制作をするようになった。最初は無数の公衆トイレが多かったが、近年は公衆トイレが減少し、銭湯や市営住宅などさまざまな公共空間で制作を呼び、マサージ店などの壁に絵を描く仕事を請負うようになった。「信賴がなくて10年ほど無断で描き続けられた。その後、下駄まで作ったので、その事が流れたり、制作を禁止されたり、制作を禁止されたら、本心に散々なところがあった。作品のモチーフは、都市近郊の景観、新型コロナウイルス禍で制作拠点の交代が閉鎖されたこと、父のモチーフを真直しで描き出した。昭和62(1987)年、大阪府生まれ。京都市立芸術大学大学院修了。均質化した都市近郊の風景をモチーフに大規模な壁画を制作

### 推薦者(88人)

青木加高、秋田美穂、荒井直美、五十嵐卓、石崎尚、磯田謙、一井義寛、鶴尾佳奈、内田真由美、逸藤水城、大藤彩香子、大下裕司、OJUN、大橋晃典、大前勝昌、岡里崇、岡部ひろ、小川隆生、小川希、奥島嵩大、小野賢子、鎌野正彦、勝山滋、加藤泰夫、神島寿、岸本和明、北川アラ、木藤野絵、木村絵理子、楠本智郎、黒川公二、黒河内卓郎、桑名真吾、腰野鈴音、小沢武智、小原真史、近藤由紀、斎藤生生子、坂元穂美、塩津真夏、浜田見彰、渋谷佑、下村朝香、尺戸智佳子、新藤淳、菅沼万里絵、妹尾綾、仙居悠子、高田彩、瀧上華、立花由美子、鎮西芳美、筒井宏樹、出原均、土岐美由紀、鳥羽都子、友井由一、中庭英恵、中西真、中野仁、永松左知、中村史子、中山摩衣子、原舞子、吉川文子、保坂健二朗、堀元敬、柳田倫広、真次真喜子、三井知行、宮武弘、森啓輔、柳沢秀行、山口裕美、山田志麻子、山本淳夫、山本麻友美、油井一八、横山勝彦、横山季子(敬称略、五十音順)

### 推薦作家(67人)

青山夢、逢野友理子、安藤裕美、出津京子、岩名泰岳、岡本瑛里、籠岡リグレット、安月、香月美英、川内清香子、川田知志、岸本祥太、金光男、川崎、藤谷進和沙、小林翔己、衣真一郎、齋藤春佳、佐直麻里子、佐藤康、佐野麻、飯塚隆、しまうちみか、清水香帆、末松由幸利、春原直人、ソーソウエン、高松明日香、高山夏希、田口薫、田窪薫、田中秀介、田中望、津川奈菜、津田光太郎、寺本明志、唐仁原希、仁藤まりな、野原万里絵、橋本晶子、蓮田匡治、花房紗也香、林葉穂、平川恒太、平岡ミナ、福田絵理、藤森祥、古石紫織、文谷有佳里、堀江英、松井えり、松平利奈、松谷博子、松本和子、水野里奈、水戸部七絵、三輪瑛子、村上早、齋井悠輔、本山西ゆかり、八輪洋平、山崎雷蔵、山下西里、山本理恵子、弓指寛治、横山奈美、吉田桃子、夜放ル(敬称略、五十音順)

### 「絹谷幸二芸術賞」とは

洋画家で文化勲章受章者、絹谷幸二氏の若手美術家を支援したいという熱意のもと、令和5年に創設。第2回は、全国の美術関係者約300人に40歳以下の作家の推薦を依頼。推薦資料をもとに審査員の絹谷氏、島敦彦氏、建島哲氏らに賞金(大賞100万円、奨励賞50万円)と副賞の面材、大賞受賞者には海外旅費も贈られた。



公式HP  
<https://kinutani-award.art/>

- 【主催】 絹谷幸二芸術賞実行委員会、産経新聞社、公益財団法人絹谷幸二美術財団
- 【共催】 チャーム・ケア・コーポレーション
- 【協力】 サクラクレパス、ミキハウス

未来を、アートで描け、

CCC AGH CHARM CARE CORPORATION ART GALLERY HOME

チャーム・ケア・コーポレーションは若手アーティストを支援しています。